

令和4年度 刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会 第3回夢ファンド部会(公開審査会) 記録

日時 令和5年1月14日(土)
午後1時30分～午後5時00分
場所：刈谷市民ボランティア活動センター

出席者

団体名・役職等	氏名
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛
名城大学 教授	昇 秀樹
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
刈谷市公民館連絡協議会 書記	近藤 路依
刈谷市女性の会連絡協議会 会計	高岡 育代
NPO法人刈谷おもちゃ病院 副理事長	長澤 勇夫
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵
一般公募	面高 俊文

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	市民協働課長	渡部貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	小原 崇照
市民活動部市民協働課	主事	内藤 佑佳
NPO法人ボランタリーネイバース	副理事長・調査研究部長	三島知斗世
NPO法人ボランタリーネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子
NPO法人ボランタリーネイバース	事務局	井村 美里

1 開会・あいさつ

- (1) 定刻になり、市民協働課課長補佐兼協働推進係長が開会を宣した。
- (2) 市民協働課長あいさつ

2 公開審査会

(1)まちづくり活動支援事業

1 元気な一ツ木まちづくり隊／「はっぴ祭り」

ア プレゼン概要

【団体概要】

- ・「地域の子どもは地域の宝」をキーワードに活動している。地域の子どもたちが、一ツ木を好きになるよう活動を行っている。
- ・子どもの頃、神社の境内で開かれるお祭りでは、たくさんのお店があり楽しかった思い出がある。いつの頃からか屋台はなくなり、お祭りでは閑散としている今、お祭りに来る子どもたちにワクワクする楽しい思い出をつくってもらいたいと考えて活動を始めた。

- ・カフェを営む企業に協力してもらい、バリスタカフェを開催。地域の子どもが店員となり行っている。その他、射的やわたがしなどの出店を行っている。
- ・活動は2016年より開始し、これまで5回実施。2020～2021年はコロナ禍により中止。2022年には地域からの声を受け再開した。
- ・手作り感を大切に、近隣地区から備品を借りるなど協力を得ながら実施。2年目以降、元気な地域応援交付金を受けながら、地域の団体との連携を強めてきた。必要機材も購入し、円滑に進められる。

【活動実績と成果】

- ・一ツ木のお祭りとして認知されるようになった。また、地域の活動団体や店舗と連携を取れるようになり、必要備品も揃っている。

【提案の理由とねらい】

- ・地域全体で活動自粛、つながりの希薄化、担い手不足が起きている。子ども会の解散、地域の運動会がなくなった。
- ・ママの得意を活かした出店、運動会を実施してほしいという声が出てきている。
- ・活動団体の連携強化による地域ニーズに応える体制づくりを行いたい。

【実行体制・役割分担】

- ・例年通りの体制と新規事業を実施するために向けた新しい体制づくりを検討している。

【活動日程】

- ・例年通りの日程にて実施。

【今後の事業継続・展望】

- ・中長期的に考えていることは、イベントを通して子どもが楽しみ、まちを好きになり、その子どもの成長と共にボランティアとして参加していくこと。「はっぴ祭り」は、中学校で一番人気のボランティア活動になっている。参加した子どもが親世代となったとき、その子どもと一緒に参加し、思い出づくりの場になること。そして、新たな担い手になることを願っている。また、「もうすぐお祭りだね」という声が聞こえるまちを実現したい。

イ 質疑応答

- 委員：1) 地域のお祭りの企画運営と、今までの仕事やご経験とつながりはあるか。地域でいろんなイベントをやろうとしても、役員が代わるとノウハウの伝承も難しく、スローダウンしてしまいがち。プロがいて伝承する、よりプログラムを膨らましていけると、地域の期待が広がり、いいお祭りとして継続できる。
- 2) 財源と人数計画について。これまでの活動は「元気な地域応援交付金」の補助を受けていたということか。補助を受けて開催した2～4回目のお祭りのイメージが残っている中、5回目は縮小して開催したとのことだが、地域の反応は今年どうだったか。6回目のイベントのイメージについて、どのように変えていくか、3年前にどう戻していくか、ビジョンがあればお聞かせいただきたい。また、過去平均の参加者数、次回どのくらいの人数の参加を計画しているか。
- 3) 神社の総代会とはどのように関わっているか。神社の費用でお祭りを開催している。また、自治会の主体性はどのようか。
- 団体：1) 技術系の仕事であるため、仕事との関わりはない。活動初めて2年目くらいから引き継ぎを考えていたが、大変なため引き継げず続けている。自分自身は楽しんでいるが、自分が活動できなくなったらどうするかはまだ考えていない。誰かが出てくれるとよい。
- 2) 参加者は数えていないが、今年が一番多かったという印象。2年空いたので楽しみにしていただいていた。子ども400人くらい、地域の方を合わせて1000人ほどが参加した。朝から夕方までずっと人がいたので例年より多かった。次回は1000～1500人として今年

と同規模を予定する。祭りを開催すると従来と同じなため、地域で特技を活かして出展するママさんの活動を応援することに重きを置いて活動する。

3) 総代会とは連携して活動した。5 回目は補助金がないため、自治会および奉賛会（神社）の支援金により協力を得た。支援する代わりに、神社からさみしいのにぎやかしをという声をうけて、神社を舞台とした謎解きゲームを企画して取り組んだ。

委員：活動は一つ木に限定して、他地区のイベントに取り組む予定はないということか。

団体：この後の団体として発表するので、お楽しみにしてください。

委員：神社の奉賛会と地区、団体、3 者の相関性について、どこまで協力して、どこが責任を持つか。一般には奉賛会が責任を持ち、神社がお祭りを取り仕切ることが多い。なぜ、団体が主体として取り組んでいるか、もう少し詳しくお聞かせください。

団体：主体は団体である。誰かからやってと言われたわけではなく自主的に取り組んだ。自分たちが楽しかったお祭りを自分たちで再生したいという思いから、神社の前の公園で勝手にやります、ちょっと応援してくださいと支援金をいただいたのが始まり。その後は勝手にやるわけにはいけないので、支援をいただいたり、会議の中で時間帯や道路の使用許可など分担し、協力体制を取りながら進めている。やらされ感でやっているわけではない。

【委員からの感想】

- ・コロナ禍により2年お休みされた中で、再開をされ、苦労されたと思われる。参加者が楽しく、お祭りが盛大に今後も安定的に続けていけることを期待する。補助金は永続的ではないため、活動が継続するための工夫を望む。

2 SUHARA MUSIC FES 実行委員会 / 「第4回 SUHARA MUSIC FES」

ア プレゼン概要

【団体概要】

- ・井ヶ谷地区にて、2018年より3回音楽祭を実施。開始当初は出演者10組であったが、現在は22組と増えてきた。昨年度は刈谷市制70周年記念事業として実施。3,000名が参加した。
- ・昨年は、屋内ではクラシックなどの演奏、屋外ではセミプロの演奏やキッチンカーが出店し実施した。
- ・音楽は年齢や地域、国を超えた力がある。その力には癒しがあり、その力を信じてフェスを開催している。目標は、音楽を媒体とした地域の活性化、音楽を愛する人の自己啓発の場、集う人の憩いの場を提供すること。気軽に楽しめる場として行っている。

【活動実績と成果】

- ・これまでの参加者からは「生演奏はいい」「クラシックなのに子どもと一緒に入れる」「高校生の合唱に涙が出た」という声をいただいた。井ヶ谷地区にて定期的な音楽祭として行いたい。

【今後の事業継続・展望】

- ・今後の目標は、『継続と定着』である。定期音楽祭とし、地域の気軽に聞ける音楽祭とすることや、アマチュアの音楽家の励みとなるような場としていきたい。
- ・地域で気軽に聞ける音楽祭として「地域密着型」であり、地域の良さを活かす音楽祭である。公園や愛教大と連携することで、刈谷北部地域の定期開催、定着につなげていきたい。

【提案の理由とねらい】

- ・井ヶ谷地区には、かきつばた群落がある。写生大会や俳句の募集、子どもも楽しめる折り紙や粘土細工、出演者より「すはらかきつばたの歌」募集を考えている。
- ・それぞれの作品を北部学習センターにて展示と記念品贈呈を考えており、集客も見込める予定である。
- ・ミササガパークの桜まつり、桜まつりとあるが、北部地区にて地域の資産を活かした「かきつばたと音楽の祭典」として定着できるようにしていきたい。

- ・刈谷市では 5 曲の市歌があるが、その中で「みどりの風」の認知度が低い。その曲に 4 番を作成し発表を行った。愛教大学生ボランティアが歌詞を掲げ、愛教大附属高校の合唱部と発表した。井ヶ谷町内行事で踊りが復活した。
- ・かきつばたの花言葉は「贈り物、幸せはあなたのもの」である。今後も、音楽でつながる人が幸せであるようお願い活動を行っていききたい。

イ 質疑応答

- 委員：1) 音楽で交流を深めるねらいの中で、地域社会の活性化につなげるために、特に力を入れることがあればお聞かせいただきたい。
- 2) 参加のハードルの下げた点について、お考えがあればお聞きしたい。
- 団体：1) 地元企業やお店へ支援金をお願いしている。周知徹底し、イベントに参加することで地域の活性化につながる。音楽が好きな人、習ってきたが今は辞めた人の発表の場を提供することで、参加の機会を設けて活性化につなげたい。
- 2) 演奏ジャンルはクラシックやジャズなど、専門的なものが多い。クラシックの演奏会は入場料が高かったり、子どもと一緒に参加できないこともある。音楽協会の協力を得て、参加費無料とした。子どもが騒いでも問題ないという気軽さがよかったとの声が聞かれている。
- 委員：今後の目標の一つに挙げた持続性に関して、資金集めが大変になるが、企業の協賛や補助金が多くを占めると思う。参加する人が楽しんで集まれる機会が増えるとよい。気楽さがゆえに、興味のある人は集まりやすくて、幅広く触れてもらうことは意外に難しいかもしれないので、幅広く知らないジャンルに触れる機会になるとよい。
- 委員：刈谷市内、市外の方の参加の割合はどの程度か。
- 団体：コラボ 70 補助事業を受けて大規模に開催した。22 グループ、4 ジャンル、学生、クラシック、ジャズ、ポップロック。8 割程が市内の参加であった。
- 委員：地元の方が多く参加されていて驚いた。地元の参加は大事なため、地域から参加するよう仕掛けていくとよい。
- 委員：収入の自己資金 50 万、補助金 20 万について、継続していくためにどのように収益を確保するか。計画にクラウドファンディングと書かれているが、労力もかかることである。お考えがあればお聞きしたい。
- 団体：クラウドファンディングを検討していたが、現在は見直して、協賛金 40~50 万円の実績をもとに同等の額を見込んでいる。過去 2 回と違う点は、キッチンカーとマルシェの開催。出展者からの協力金も見込む。
- 委員：次年度以降は、今回の予算以上に確保できる見通しがあると理解した。

【委員からの感想】

- ・学生は、学校の授業で学んだり、文化会館等でプロの演奏に触れることが多い。そのどちらでもなく、アマチュアなどに機会を提供する活動であり、市民活動・NPOの活動としてふさわしい。
- ・それに伴い継続と定着が望まれる。3 年間で補助金は終了となるため、工夫して継続と定着につなげていただけると良い。

3 スマイルリンク／「子ども食堂にお祭りを届けよう」

ア プレゼン概要

【団体概要】

- ・2022 年 9 月に設立し、活動開始。会社仲間や地域外で活動する仲間と立ち上げた。
- ・活動を通じて、人と人がつながり、幸せの架け橋を創出することを目的として活動を行っている。

- ・子ども食堂とは、子どもが1人でも来られる食堂である。開催時期は様々で、月1回から週で行うなど地域や活動団体により異なってくる。

【こんな想いで活動を始めました】

- ・苦悩や孤独を抱える親、困窮者世帯の子どもを対象に、お祭りを届けようと活動が始まった。お祭りを行うことは、直接的な支援ではない。だが、お祭りを通して心休まり、温まるひとときを届けたい。

【困りごと・ニーズ】

- ・困窮者世帯では、お金のかかるお祭りには行きにくい。また、子ども食堂には世間の目が気になって足を運びにくい。忙しい親には、子どもとの時間が持てないこともある。
- ・子ども食堂の周知が届いていないこと。子どもへの助けや居場所になりたいという思いがある。

【実現したいこと】

- ・笑顔、元気の創出、親子の触れ合い、スタッフの交流、新しいつながりの強化、子ども食堂の認知度向上、支援者の増加を目指している。
- ・2022年11月26日に子ども食堂のほっとライスで初開催した。中日新聞へも掲載された。

【実行団体と役割分担】

- ・子ども食堂の運営とお祭りの運営を分けて行う。開催地区の団体とも連携する。
- ・団体はお祭りの企画運営を行い、子ども食堂は通常の運営を行ってもらう。広報等は子ども食堂にお願いし、その他開催に関することは、開催地区にも協力してもらう。

【事業内容と経費】

- ・助成金として、coop 共済地域ささえあい助成に申請している。
- ・ほっとライスが、社協より施設利用料の支援を受けているが、本事業にかかる経費ではない。

【今後の展望】

- ・1年目は当団体主導で行い、2年目に子ども食堂が企画・運営できるよう支援を行う。3年目には、子ども食堂が自走できるようにしていく。
- ・継続的につながりを生む活動として、地域や団体と祭りを通してつながり、地域の困りごとを解決する支援を行い、子どもたちの笑顔を創出する支援を行いたい。お祭りに参加する親子が増えるよう活動を行っていきたい。

イ 質疑応答

委員：初年度は主体的に行うが、2年目は子ども食堂の方がお祭りをやって3年目は手を引くという計画だが、子ども食堂側が予算を用意することは難しいのではないか。主体を切り替えていく話は子ども食堂側と進めているか。

団体：子ども食堂では、フードバンクや寄付品を集めている。お祭りの景品は、寄付品で賄うことができる。お菓子や飲み物はフードバンクで集めたものである。子ども食堂側で企業から集めた防災グッズを配ったりしているので、品を代えて代用することは可能であると、子ども食堂側とも話をしている。

委員：トラックや発電機などは、子ども食堂を支える人や地域の人々の力を借りたら協力してもらえるのではないか。地域の人たちを巻き込むことで、ゆくゆくはバトンタッチにつながる。子ども食堂は国の施策としても支援があり、企業からも食料の提供がしやすくなっている。そうした情報を集めながら、子ども食堂と連携を取りながらうまくやっていけるとよい。お祭りが好きということなので、子ども食堂と連携を取りながら、ずっと支援していただけるとよい。

団体：その通りではあるが、一つの子ども食堂だけに関わることは難しい。今後の発展として、知立やみよしの子ども食堂も支援していきたいと考えており、自走する形を作ってもらいたい。

委員：経費について、申請書は4回分のところ、発表は2回とされた点について、説明をいただきたい。

団体：申請時は4回としたが、細かな計算をしたところ、3回は実施できるかなと考えている。その点は修正させていただきたい。

- 委員：申請書に「小高原小学校、住吉小学校」とあるが、学校で開催されるのか？
- 団体：正しくは桜区、長善寺の2か所だけであったので、2か所で3回開催に訂正したい。
- 委員：2年間補助活動を受けた後、その先の活動の展望は？
- 団体：いろいろな地区から品は集まる。今年の景品は寄付で賄った。続ける課題はお金ではなく、子ども食堂にイベント運営のノウハウがないことである。それを伝えることによって自分たちでできるようになると考えている。
- 委員：ボランティア団体が自分の得意を提供して子ども食堂を盛り上げる活動が行われている。同じように少しずつ協力していくことでうまくいくのではないかな。
- 団体：いい関係を続けたい。機材（わなげ、射的、綿菓子機）は買うと高いため、地域に貸し出ししたり、人手があれば手伝いたい。
- 委員：桜地区の役員として、11月のほっとライスの子ども食堂に参加したが、大変盛り上がりしており、他の地区にも広めてもらいたい。子ども食堂でお祭りを開いた成果として「堂々と子ども食堂に参加できた」「遠慮なく参加できるようになった」と声を聞いた。ただ、ノウハウを移転して、3年目から自分たちでお祭りが開催できるか懸念がある。簡単に手を引かず、地域ができるようになるまで続けてほしい。
- 団体：地域の関係者とはつながりがある。関係性は続けていきたい。

【委員からの感想】

- 子ども食堂にお祭りを取り入れることで、たくさんの方に来てもらい、一般の人にも応援者となる。数が力になってくる。また、後継者づくりにも同時に取り組むことで、活動に広がりが出てくる。今後とも応援している。

4 元刈谷地区歴史研究会／「元刈谷地区歴史関連冊子制作・発行」

ア プレゼン概要

【団体概要】

- 平成27年より、元気な地域応援交付金事業にて3年間活動を実施。歴史をテーマに、歴史講演会、地域内史跡巡りに取り組んだ。翌年より、歴史研究会を立ち上げた。
- 講演では「お宝いっぱい元刈谷」として開催し、市内の文化財のうち20%、県の文化財が9分の7、77%は元刈谷地区にあることがわかった。
- メンバーは、研究者ではなく、歴史好きや社会科の教師である。回覧板で地域の人に見てもらったところ、地域から意見が出てきたことにより、目的が変化した。

【事業内容】

- 元刈谷地区の歴史について回覧板にて周知することや文化展へ出展を行う中で、地域より「回覧板で回ってきた歴史だよりのコピーを取っているよ」「ホームページを見ているよ」という声を受け、冊子の制作を考えた。
- メンバーだけでは活動を行う中で人手が不足する部分があり、協働相手と共に活動を行っている。地域のパトロール隊には、公民館にて安全面の確保を協力してもらった。公民館の文化展では、掲示物に回覧板で出しているものを紹介した。また、市民館には、歴史だよりを配架してもらった。
- 元刈谷地区は、刈谷の歴史的に重要な地域である。地区外に、元刈谷地区の魅力を確認してほしいと考え、本にして、代々語り継いでほしいという想いが出てきた。
- 回覧板での周知を継続して行い、現在54号まで実施。2月には、200ページほどの冊子を発行したい。
- 配布先として、個人宛に100部、関係機関（寺、神社、事業所）に25部。残部は販売を行う。

【今後の活動】

- ・地区団体からの要望として、衣浦小学校 6 年生から歴史の勉強がしたいと依頼があった。於大の肖像画、調度品を子どもたちに見せた際に、子どもたちが感動していた。依頼があれば、今後も継続していきたい。

イ 質疑応答

- 委員：ホームページの記事は、隣の地区なので関係しており楽しく拝見した。200 ページの冊子はどのくらいの大きさか。
- 団体：現在は文字 10 ポイント程度で A4 両面としている。12 ポイントにすると 1.3 倍になる。ページ数が増えると手に取られなくなってしまう。
- 委員：表紙とあわせてもう少し検討いただくとよい。本の活用について、小学校や歴史の資料会の予定はあるか。
- 団体：取材やまとめに精一杯であるが、学校や地区から地域で話を聞きたいと声があがっているので、計画しつつある段階にある。今まで書いたものにプラスアルファした冊子をつくりたい。
- 委員：冊子をうまく活用していただきたい。ガイドボランティアとあるが、語り部に使ってもらえると有効に活用できる。
- 団体：ガイドボランティアとしての活動経験があったことで、今回の活動に参加した。ふるさとガイドボランティアのメンバーに助けられて活動ができている。生きがいとして続けていきたい。
- 委員：本が完成した後も、次号の発行など、元刈谷地区の情報を皆さんに伝える活動を継続していただきたい。
- 委員：配布先について、「取材個人、取材団体」とあるところは有料で配布するか。
- 団体：取材先には無料で配布する。
- 委員：有料で売れる。自分自身でも地域の冊子を購入して刈谷の勉強をしている。少しは有料で販売して、お金が回るようにするのも手である。
- 団体：配布先リストには重複もあるので調整して、残部は販売を検討したい。

【委員からの感想】

- ・元刈谷地区の歴史について、よく知らなかった。取材や地域の住民の方に見聞きしたことを回覧板やホームページで公開し、今回冊子にまとめられる。今年の大河で話題の於大の方も取り上げられており、大変興味深く読んだ。それだけではなく、とても楽しめる内容であった。地域の歴史を知ること、愛着も湧いてくる。頑張っていたきたい。一度きりではなく、今後の冊子を期待したい。

(2)NPO法人設立支援事業

NPO法人幸縁

ア プレゼン概要

【団体概要】

- ・刈谷市で教員をしていたが、2016 年より 2 年間 JICA 青年海外協力隊にてグアテマラへ派遣され活動を行ってきた。グアテマラへの恩返しと、日本との縁を大事にしたいという思いから法人を立ち上げた。現地への支援と国内への活動に取り組んでいる。
- ・グアテマラは、素敵な国であるが社会課題が多くあり、子どもたちは経済的な理由から能力があっても進学できない。特に小学校から中学校への進学時に支援を行い、活躍できる人材を育てていきたい。そのために、教育基金里親制度を考えた。
- ・当団体のビジョンは「双方に“幸”が生まれる“縁”を築き、すべての人の心に生まれた種が花咲く社会の実現へ」としている。支援という上下関係ではなく、お互いに分け合うということから「幸縁へ」としている。

【組織体制】

- ・2022年6月20日にNPO法人格を取得。法人格を取るまでは、個人で活動を行っていた。現在は、代表、副代表、理事、正会員16名、現地協力者16名の体制にて活動を行っている。

【活動内容】

- ・主にオンラインで3つの活動を行っている。

① 公教育の場を主とした英語交流

- ・日本とグアテマラの子どもを対象に両国の子どもをつなげる活動として実施。延べ1,100名の子どもと交流の場を設けた。市内では、刈谷南中学校、東刈谷小学校にて実施。今後教員とつながり実現していきたい。

② ボランティア先生と子どもの支援

- ・現地のオンライン環境を整え、グアテマラと日本がいつでもつながるようにしている。全国から英語を教えられる日本人のボランティア教員の体制を作っており、英語教育を行っている。今後は刈谷市民にむけても機会を広げたいと考えており、愛教大の学生や地元企業のプロボノに協力を提案し、展開する予定である。

③ 教育基金里親制度

- ・教育基金里親制度は、日本人が学費を支援しグアテマラの子どもへの奨学金とする支援事業。月額4,000円で、子ども1名が中学校に通うことができる。2023年より第2期生として10名の子どもを支援する。支援者の内、3名が刈谷市からである。隔月でオンライン交流会も行っている。

【刈谷市とのつながり】

- ・愛教大の協力の元、1月7日に刈谷市英語実習研修会にて活動紹介を行った。今後も、協力を得ながら刈谷市の教育へ貢献していきたい。
- ・モットーとして「目の前の人から始める(Think global, act local)」としている。グアテマラの子どもを対象としているが、目の前の刈谷市民も大事にしていきたい。

イ 質疑応答

- 委員：1) 今後はどのように収益を立てていく予定か。現在は寄付金を中心だが、今後の収入の柱は？
2) 学業支援の先は仕事づくりと思うが、その点についてどのように考えているか。
3) グアテマラの認知度は刈谷の中でまだまだ低い。まずは知ってもらうことが必要である。情報発信はインスタとブログを利用しているが、今後拡散する計画やしきみについてお考えをお聞きしたい。
- 団体：1) 小さな規模で始めており専門家を雇うことはできないので収益事業は行わず、寄付金のみで活動している。寄付を受けるだけでなく、さまざまなサービスとして提供している。オンラインでグアテマラの子どもと交流する事業を行っていて、参加した方が、子どもの力になりたいと寄付につながるケースが多い。里親として月額もしくは年額で継続的に支援したり、子どもたちの通信費を支援するネットサポーターが、年間で10名集まった。事業自体の運営はできる。
運営力をつけたら収益事業も視野にいれたい。英語での交流会は、日本の子どもが学校で学んだ英語を使って世界の同世代の子どもとつながる経験を提供できる場となっており、収益事業としての可能性を感じる。
2) 子どもたちが、自分たち自身でお金を稼げるようになることは大事と考えるが、力不足でまだ手を付けられていない。英語を身に着けることが将来的にお金を稼ぐ力の一つになる。村には仕事がなく貧困の連鎖が起きている。英語ができるようになれば、オンラインで働く道もある。
3) 代表一人で広報、運営、計画を務めていてパンクしている。広報担当のスタッフが加わる予定である。全国に支援を募るより、地元で取り組みたい。刈谷の学校とつながったり、回

覧板にのせてもらったり、市国際交流協会と連携して活動したり、KATCH 主催イベントに登壇する機会を通して、市内、三河地域での認知度を少しずつ上げていきたい。

委員：横のつながりはできている。愛知県は多文化共生の団体は多いため、他の団体からノウハウを取り入れて活かしていただきたい。

委員：色々なところで活動を聞くので、市内では有名になっている。会員を募ったり寄付は大事であるが、現金を求めると、相応の見返りが求められる場合もある。国際 NPO では、現地の物産を日本で販売して収益を挙げて、現地の雇用を生む活動もある。現地の物産をつくることは可能。現地の産物販売も収益の柱となる。今後、考えていただくとよい。

【委員からの感想】

- 市内の身近なところに、台湾や中国の方がいる。それぞれ受け入れる地域の側が理解する必要があり、まだまだ足りない部分がある。回覧板で地域にむけて周知を行うことでも、理解・普及になる。女性の会に参加した台湾の方より、「楽しそうだから続ける」と2年連続で務めたことがあった。相談を受けたこともあり、心のケアなどを行わなければならないと感じている。お話を聞いて勉強になった。

3 結果発表・全体講評 於：市民ボランティア活動センター

(1) 結果発表

まちづくり活動支援事業（基準点：12.5点）

順位	発表順	団体名	事業名	審査点	会場点	合計点	採否
1	(2)	SUHARA MUSIC FES 実行委員会	第4回 SUHARA MUSIC FES	20.13	1.50	21.63	採択
1	(4)	元刈谷地区歴史研究会	元刈谷地区歴史関連冊子制作・発行	19.63	2.00	21.63	採択
3	(1)	元気な一ツ木まちづくり隊	はっぴ祭り	17.75	1.00	18.75	採択
4	(3)	スマイルリンク	子ども食堂にお祭りを届けよう	17.00	0.50	17.50	採択

NPO 法人設立支援事業（基準点：15点）

順位	発表順	団体名	審査点	採否
—	(5)	NPO法人幸縁（しえん）	18.88	採択

- 審査結果については、後日団体あてに郵送するとともに、市のHPにも掲載する。
- 交付申請・決定は来年度4月以降に手続きを行う。

(2)全体講評(審査委員長)

- 皆さん、採択おめでとうございます。

1. 行政と市民活動・NPO 活動の役割分担について

- かりや夢ファンドは、行政が未だ取り組んでいなくても公益目的の事業があるという考えから、それを市民活動の中で展開してもらうために、市の税金を用いて補助する制度である。このことから、自分たちの活動が行政の事業とどういう関係にあるかを考えて活動していただきたいと思っている。
- 幕末、トルコの方が遭難した際（エルトゥールル号遭難事件）、和歌山の漁師たちが中心となって助けた。今でいえば市民活動である。トルコではそのことを教科書で教えられているので、日本への好感度が高く、中東で政情が悪化した際、在住日本人の帰国にトルコ航空が協力した。幕末の漁師による行動が時間・空間を超えて現代に生きた。
- これは、市民の善意による活動が、日本の国益につながった例で、公益目的の活動を行政に任せているとこのような話は起こらない。NPO・市民活動を支援することは、行政だけでは実現できない公益を実現する可能性がある。市民活動がたくさんある方が結果的に国益を守り、安全保障リスクを軽減することにつながる。
- また、短期間のメリットだけではなく、時間・空間軸を広げることにより、善意の行動が100年先の子ども・孫世代で初めて国益になることがある。グアテマラと刈谷市民が親交を結ぶことが、100年経つと国益につながっているかもしれない。

2. 少子高齢化・人口構造の変化と市民活動

- 時代が抱える色々な課題の中で、特に少子高齢化は、官民ともに取り組む課題であり、自分たちの取組がどのように関係するか考えていただきたい。
- 団塊世代 270 万人、その子どもは 200 万人であるが、現在の出生率 1.3 人。日本の人口構造は、1950 年代は 50 代が一番高く、2020 年代はピラミッド型、2050 年以降は逆ピラミッド型に変化する。毎年 60~70 万の人口が減り、2100 年には 6 千万人となる。子ども・若者は急減、高齢者は急増する変化の中で、日本のこれからの社会のあり様は変わり、そのことは活動にも影響する。
- たとえば、祭りはかつては子どもが楽しみにするものだったり、音楽フェスは若者が楽しむことが多かった。逆ピラミッドになると、お客さんになる人が少なくなり、その維持のためには大人も参加できるあり方を模索することになる。
- 歴史研究の活動では、100 年前の刈谷の人口、今、そして 50 年後はどうなるか。一人ひとりの生活、職場、福祉、教育は激変する。また、台風や災害でどのような被害を受けたか、変化にどのように対応したか、何がうまくいかなかったか、今どのように備えができるか。といったように、人口構造の変化の中で、皆さんの活動がどういう関係にあるか考えながら活動していただくことを期待する。
- 少子高齢化に最も短時間で向かうのが日本で、その中でどのような社会をつくっていくか、人類史的な実験とも言える。そうした視点から皆さんの活動を見直していただくことで、活動の広がりや、大きな課題との関係をひもづけして、自分たちの活動を続けていくことになる。そのことが広く、県、国、世界へ向けた情報発信につながる。
- 行政だけでなく、さまざまな団体が公益活動に取り組む社会は、多様性に富み、リスクを小さくする、大事な活動である。皆さんそれぞれの活動分野において、ますます発展していくことを祈念して、講評とさせていただきます。